

「地域版子育ての駅」(仮称)の整備について

1 概要

地方創生の上乗せ交付金(平成27年度事業)を活用して、現在運営している子育て支援センターを各地域の子育て支援の拠点施設として改修等を行い、「地域版子育ての駅」(仮称)として整備する。

子育て世代だけでなく、多世代が集い交流できる場、子育て支援のネットワークが広がる場として事業運営を行う。

○子育てコンシェルジュの配置

一人ひとりに寄り添い、子育てに関する相談・情報提供を行う。地域の様々な人材や行政とのつなぎ役となり、支所地域の良さである保健師の活動と密な連携を取りながら相談等に応じる。

○市民力・地域力を活かした運営

各地域の特徴や人材を活かした交流事業を行ったり、老人会等と連携し近所に気軽に相談・支援しあえるつながりを育て、地域全体で子育てを支えあう環境づくりを行う。

○子育て支援センター機能の充実

これまでも地域の子育て支援センターとして各地域の中で運営を行ってきた。今後は、これまで以上に、地域の中の多世代・多分野・多文化の人々が子育てをキーワードに集い交流できる子育て支援の拠点施設としてソフト事業を充実する。

2 「地域版子育ての駅」(仮称)の整備

地域	実施場所	開館時期	運営	備考
中之島	みずほ保育園	1月	直営	現在の建物を改装
越路	こしじ保育園	1月	直営	現在の建物を改装
三島	みしま中央保育園(私立)	1月	委託	・委託「社会福祉法人はなみずき福祉会」 ・平成27年度新築(11月竣工予定)
山古志	山古志体育館	1月	委託	委託「総合型クラブY-GETS」
小国	ひまわり保育園	1月	直営	現在の建物を改装
和島	和島保健センター	4月	直営	和島保育園で実施している子育て支援センターを和島保健センターに移設
寺泊	おおこうづ保育園	1月	直営	現在の建物を改装
栃尾	子育ての駅「すくすく」	1月	委託	現在の子育ての駅にコンシェルジュを配置
与板	与板幼稚園	4月	委託	・委託「社会福祉法人光寿福祉会」 ・与板幼稚園の空きスペースを活用して実施
川口	支援センター川口すこやか	4月	直営	現在の建物を改装

子育ての駅運営事業について

1 子育ての駅のコネプト

子育ての駅は、「雨や雪の日でも子どもたちを安心して遊ばせるスペースがほしい」、また育児不安を抱える保護者が増えており、子育て相談や親同士の交流の場を求める声が多かったことなどから誕生した長岡オリジナルの子育て支援施設である。

子育て世代はもちろん、子育ての先輩や次代の親になる若者など多世代、多文化・多分野の市民が集い、ふれあうことで世代を越えた交流や子育て支援の輪が広がっていく場である。

各施設の立地条件や周辺環境等を最大限に生かし、施設の特色や独自性あふれる事業運営を展開する。

単なる遊び場ではなく、子育ての悩みを抱える保護者が交流できる場であるとともに気軽に相談できる場である。

運営にあたっては、子育ての駅サポーター制度を設け、市民協働型の事業運営を行っている。

2 子育て支援センター（子育ての駅含む）の機能・役割

① 親子交流の場の提供と交流促進

運動遊び、工作、誕生会、お話し会、絵本の読み聞かせ、親子クッキング、ベビーマッサージ、遊びの提供ほか

② 子育てに関する相談・援助

専門職による相談、日常の相談（保育士）、子育てコンシェルジュの相談

③ 子育て関連情報の提供

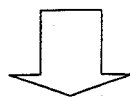
子育て情報の提供、セミナー等開催チラシの提供

④ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

離乳食講座、保健師や栄養士等による講座

⑤ 地域支援

出前保育、地域の伝統・伝承を伝える交流、地域の中での多世代・ふれあい交流など



○これまで各支援センターで実施してきた事業を大切にしながら、各地域の子育て支援の拠点施設として、立地条件や周辺環境等を最大限に生かすとともに、地域内のネットワークを活用しながら、地域ならではのソフト事業を展開する。

○子育てコンシェルジュが、つなぎ役となって、相談、情報提供を行う。

子育てコンシェルジュ事業について

1 背景・経緯

これまでも子育ての駅では、保育士が常駐し、いつでも気軽に相談できる体制を整え、個別の相談に応じてきた。

そのなかで、1人の決まった担当者から相談を継続的に行って欲しい、専門的な機関と一緒に行って欲しいといった声が高まってきている。また、子育てに関する情報が氾濫する状況の中で自分に必要な情報を選べない保護者が増えているという現状もあり、情報を整理して必要なサービスにつなげていく支援が必要となってきた。

加えて、母子保健推進員が家庭訪問をする中で「子育てが孤独」という声が多く寄せられ、一人ひとりの悩みに寄り添う、よりきめ細かな支援が必要となってきた。

そこで、じっくり時間をかけて話を聞き、必要に応じて関係機関につなぐ、さらには、しっかりと寄り添った支援ができる子育てコンシェルジュを配置することとした。

2 概要

平成27年5月より、子育ての駅3館（てくてく、ぐんぐん、ちびっこ広場）に、子育てコンシェルジュを1人ずつ配置するとともに、統括子育てコンシェルジュをぐんぐんに配置している。

一人ひとりの個別の子育てニーズに対応した相談や情報提供を行うとともに、必要に応じて関係機関に同行するなど「つなぐ支援」を行う。

「地域版子育ての駅」（仮称）においても、子育て世代にとって、日常的に利用できる身近な場所に子育てコンシェルジュを配置し、地域の中で、よりきめ細かな相談・情報提供ができる体制の充実を図る。

○子育てコンシェルジュ

- ・子育ての駅に常駐し、利用者に寄り添った相談業務
- ・保育園・幼稚園をはじめとした子育て支援に関する情報提供
- ・必要に応じて保護者と関係機関に同行する

○統括子育てコンシェルジュ

- ・子育てコンシェルジュの指導
- ・保育園併設支援センターへの訪問による情報収集、情報交換、情報提供、相談業務等

3 子育てコンシェルジュの支援内容（「利用者支援事業ガイドライン」より）

○利用者主体の支援

問題解決の主体は利用者自身であり、利用者の意向を尊重し地域資源の状況を考慮しながら、利用者の希望に沿う支援のあり方を利用者と共に検討する。

○包括的な支援

子育て家庭の置かれた状況、ニーズは多様である。複合的な課題を抱える家庭もあり、子育て支援のみでなく、医療・保健等の領域や地域の関係づくりなども含め、様々な支援が一体的・包括的に提供される必要があることから、関係機関が連携して支援を行うことが重要である。

○個別ニーズに合わせた支援

個別の家庭の状況に即した支援が重要である。既存の制度、施設、事業等の子育て家庭を当てはめようとするのではなく、個別ニーズに合った施設や事業等を提供していくという視点が大切である。

専門的かつ複雑な相談対応を円滑に実施するため、各専門機関と連携し、「つなぎ」の役割を果たすことが重要である。

○子どもの育ちを見通した継続的な支援

子どもの発達を見通しながら、長期的視野に立って、計画的・継続的に支援を行うことが重要である。支援施策は、ライフサイクルに応じて区切られているものが多いが、切れ目ない支援の提供が必要である。

○早期の予防的支援

困難な事情を抱えた子育て家庭のニーズをいち早く把握し、予防的な働きかけを行うことは、状態の更なる悪化を防ぐことになる。

○地域ぐるみの支援

それぞれの地域の実情に合った柔軟で多様な取組が必要である。